国際政治学

Intro

民主化や政治変動 – 久保慶一　比較政治学

国際経済 – 遠矢、Jack Seddon 国際政治経済学

開発・貧困問題、環境問題、人権問題 – 深川由紀子　開発経済学

本授業のフォーカス：

* 国際政治一般、国際システム、秩序
* 安全保障、戦争と平和
* Paradigm の説明はomitting する
* 現実主義、リベラリズム、構築主義などの大雑把な枠組みを排除
* 具体的問題の因果関係やメカニズムの解明
* 近年の理論研究や実証的な知見、通説に基づく授業。世界的な通説。説明能力が高い、正しさの保証は必ずしもない。

政治の論理と政治学の論理の異なり

* 政治家・政策決定者は減少に利害関係をもつ当事者

彼ら彼女らの正解は真理ではない

* 政治の論理
  + 当事者性を持つ
  + プレイヤーによる政治の言説は政治ゲームのプレーそのもの
* 政治学の論理
  + 政治学は、政治ゲームの展開やそのメカニズムの記述
  + 政治学も当事者性は完全には免れ得ない
  + Eg 日米同盟による核の傘
    - 政策実務かも研究者も米国による核抑止の拡大は機能するとは思っていない。日本に対する攻撃への報復の核抑止が米国へのさらなる攻撃を誘発する時、米国はおそらく核抑止の約束を履行しないだろう。
  + Eg 産経新聞社説
    - 日米同盟がなければ核抑止力を高められない。東アジアでは危険が高まっており、集団的自衛権の行使が必要である。
    - 政治学的に見て、抑止力を高めることで安全保障を高めるというアプローチをとることを前提としても、その手段として日米同盟の有効性、その堅固さと抑止力の間の相関は明瞭ではない。このような関係が成り立つ条件は非常に狭く限定的。
  + 日本の政治家は以上のような政治の論理と政治学の論理の区別がつかないものが多い＝政策が弱い理由の一つ。左近になってようやくエビデンス村長の兆しが。
  + Eg 安倍総理　参院決算委員会
    - 集団的自衛権に関する閣議決定。
    - 集団的自衛権→日米同盟強化→抑止向上
    - 野党も反対するも、上の論理の正統性は疑わない。
  + Eg 国連総会・第一委員会
    - 日本は核軍縮や核廃絶を国是としつつも、核兵器使用禁止条約には締結どころか、交渉自体に反対。唯一の被爆国として廃絶運動は盛ん（核兵器廃絶決議案を国連総会で外務省は毎年出している）だが、政府がそれをフォローしない。

問いの立て方

規範的・政策論的＝べき論

経験的・実証的＝である論

授業が目指すもの：

因果関係のメカニズムと因果効果のパターン

国際政治における主要問題の原因、メカニズム、政策含意

訓古学的な政治学、法学としての政治学から離れる。

実証研究で解明していく

国際政治学を学問する意義

* 「特定秘密保護法」vs「知る権利」
  + 何を知るべきか？→理解する必要がある。
  + 知り得た情報を理解するリテラシー獲得に意味がある。
  + リテラシー
    - 因果関係・要因・効果
    - メカニズム・パターンの解明

The International System and Its Historical Origins

起原―ヨーロッパシステム

* アナーキーとしての国際システム
* 主権国家システム
* ウェストファリア

→ 国際システムはヨーロッパシステムの拡大とグローバル規模での規格化<standardization>の歴史.　これが基本的な見方。

近代国際システムの歴史

* どういう時代区分？→ 紛争と協調のパターンによる
* 時代ごとに特有な紛争と協調のパターン
  + 各時代に特有の問題があり、それが主要な国際問題を生み、それへの解決策を提示する・提示する力のある国が覇権国となって国際システムを主導する
  + 発明・発見と技術革新による経済の変化
  + 紛争は経済活動への制約条件
    - 問題の原因にも、解決にもなりうる。
* 時代区分
  + 重商主義・帝国・植民地獲得競争・封建制
    - 欧州の絶対王政による対外拡大、征服
      * 国内の統一（絶対王政による）完了、対外的に拡大する必要（絶対王政の成熟、終了）。ヨーロッパが最速。
      * 軍事技術、運搬手段など統一により発達、征服を後押し
      * トルデシリャス条約（1494）コロンブスの航海を受け、ポルトガル（ジョアン2世）とスペイン（イサベラ）が海外領土の分割の境界線を設定、海外侵略のベースとなる。
    - 欧州が軍事力・経済力のセンターとなる
      * 重商主義と植民地支配（帝国支配）[格差、差異が利潤を生み出す。国内で格差が縮小→海外に格差を拡大、植民地]
      * 軍産複合体が活動のベース。軍が植民地を支配、それが利潤を生み、産業が富み、軍が増強される収奪経済。
      * 植民地征服→資本蓄積→さらなる征服
      * 政治はそれをガバナンスするメカニズム
      * 貿易は限定的（市場原理によるものではない、収奪経済）
    - 30年戦争とウェストファリア条約　1618 – 1648
      * 宗教戦争から派遣戦争、政治戦争
      * 以前は封建制に基づく政治構造
      * 近代国際システムの成立
        + 主権国家の原則（対外的自立）
        + 同質的な国家を構成要素とするシステムの成立
  + 欧州協調　1815-1914
    - 欧州における勢力均衡と多国間協調
      * システムが安定
        + 外交官を置く。外交の制度が固まる。国際法の定着。
      * 列強間の戦争は現状変更ではなく現状維持
        + 勢力均衡のバランスを調整するための保守的な戦争、台頭する勢力の牽制。
      * 経済利益の追求
      * 社会の安定性
      * バランサーとしてのイギリス
        + パクス・ブリタニカ
        + イギリスが覇権を握る
        + 産業革命（地域を超えた人の移動、封建的地方分権の崩壊、中央集権化→）・普通選挙・海軍力・交易網・金本位制（交易網の整備により金融のシステムを整備する必要）
        + 固定的な同盟国を持たない（栄光ある孤立）、台頭する勢力に対し秩序維持のために対向的な協力関係を流動的に結び、外交をリード。
      * 産業革命
        + 経済ゲーム・チェンジャー

収奪経済から交易経済へ

リカルド

* + - * + Embedded economy→De-embedded economy
        + 軍事革命、常備軍
        + 社会革命（労働者の都市移住と政治力）
        + 世界経済の統合（貿易・金融・移住）
      * 民主化の第一の波
        + 産業革命に起因する。
        + サミュエルハンチントン、The Third Wave (of Democratization)。民主化の波は三つ。第二はW W2以降、日本など、第3は韓国や中国の天安門事件
        + 米国独立、フランス革命
        + 欧州における民主化への闘争
        + 英国の選挙法の改正と普通選挙の実現
      * 列強の興亡
        + オスマン帝国・オーストリアハンガリー帝国の衰退
        + イタリア統一
        + ドイツ統一　→後発産業化と台頭
        + 米国の台頭
        + 日本の台頭（日清戦争、日露戦争、WW2 のprecursor, 重商主義のトレンドと類似した侵略行為）

→WW1 の主役が揃う

* + 世界大戦
    - WW1
      * 頑強な同盟（もともと柔軟で均衡調整のための同盟関係が強固になっていく）、力の変遷、バランスの亀裂に対応できないinflexible なシステムが出来上がり、システムの崩壊を招く。悲惨な外交の失敗としての戦争。
      * 三国同盟：独・オーストリアハンガリー・イタリア（オスマン）
      * 三国協商：英・仏・露（米、日）
      * 米国の孤立主義と介入による決着
      * ボリシェビキ革命とソビエト連邦
        + 産業革命を経た社会変革の流れ。
        + ウィルソンが14カ条の平和原則をボルシェヴィキから盗む
    - 戦間期のかげ
      * ヴェルサイユ条約によるドイツの処遇
        + 領土縮小と地位剥奪、屈辱
        + 戦後賠償と債務による経済の疲弊
        + ドイツ問題未解決
      * オーストリア・ハンガリー帝国とオスマン帝国の解体
        + 国境の長期的国際問題
        + 民族自決の欠如
      * 1929年のブラックマンデー、大恐慌
      * 国際連盟と集団安全保障の失敗（米国の孤立主義）
    - 戦間期の陽
      * 自由貿易の真骨頂と経済的相互依存
      * ノーマン・エンジェル, The Great Illusion
      * 希望的な世情に満ちていただけに、かげの影響が強かった
    - WW2
      * 経済紛争・政治紛争におけるExtremismの誕生
      * 世界の2ブロック化
        + 枢軸国：独・伊・日
        + 連合国：米・英・仏・ソ
      * 欧州戦線と太平洋戦線
      * 原子爆弾投下と「核兵器・原子力時代の幕開け」
      * 全体主義vs民主主義・自由主義の見方
  + 冷戦
    - 社会主義ブロック
      * それん、東欧とその旧植民地諸国
      * ワルシャワ条約機構
      * コメコンによる経済統合の試み
    - 資本主義ブロックの形成
      * 米国、西欧、ラテンアメリカ
      * 地域同盟：N A T O、O A S、S E A T O
      * ブレトンウッズ体制による経済システムの構築
    - 紛争、危機、クーデタ
      * 冷戦の代理戦争としての地域紛争
      * ベルリン危機、キューバ危機
      * 相手ブロック政府転覆への謀略
    - 第三世界の興隆
      * アジア、アフリカにおける脱植民地化
      * 新興国のソ連ブロック（社会主義）への親和性
      * 非同盟主義
  + 冷戦以後
    - ソ連の崩壊
      * ソ連経済と西側の経済成長
        + 軍産複合体による経済成長→軍拡競争の繰り返し、だがソ連失速、資本主義の経済的優位。
        + ゴルバチョフの改革
      * グラスノスチとペレストロイカによる国家統制の緩和
      * ソ連のアフガニスタン撤退
    - 民主化の第三の波
      * 南欧→ラテンアメリカ→アジア→東欧革命
    - 湾岸戦争
      * 集団安全保障の成功例
    - 国際協調の時代
      * 国連による、紛争介入が増加、限定的効果
    - 米国の単極支配
    - インターネットの衝撃
    - グローバル化
      * 経済統合の加速、国際競争の加速
      * フラット化した世界
    - 規格化
      * 経済危機の「規格化」「グローバル化」
    - 非伝統的力、ネットワーク型の力の台頭
      * ソーシャルメディア
      * テロリズム
* 政治・歴史の規定要因
  + 戦略的環境
    - リーダーシップ：社会問題を政治課題として提起（競争）（eg WW1 後のレーニンとウィルソン）（時代状況は客観的に存在しない。政治言説空間で構築）
    - 政治課題提起の成功にはソリューションの抱き合わせが必須。うまく解決策を提示できたプレイヤーが勝ち、リーダーシップを得る。
    - A picture containing object, clock

      Description automatically generated内生性
      * お互いがお互いを作り出す回帰的関係がわかる
    - 戦略的相互作用
      * 外的要因もある
        + 自然災害、地理
      * 戦略的アクターが合理的に干渉する
    - 戦略的環境の例：日本
      * A screenshot of a cell phone

        Description automatically generated日本の人口は長期的には急減する局面に

Long Term Cycles of War and Hegemony

Brief summary of main points from previous chapter:

All epochs in the history of world politics are constructs of society, created endogenously within the scope of political discourse of that time period. These epochs can be tracked by focusing on conflict and solutions; this aspect becomes more evident when perceiving history as a cycle of competition among rational actors vying for leadership in addressing conflicts and providing solutions to international problems.

今日では中国の台頭、米中対立と覇権のための競争。

長期サイクル論

* 戦争の発生が周期的
* 戦争がサイクルの入れ替わり期に発生する傾向
* 長期サイクル論の二つの見方
  + 1. 覇権国の興亡と戦争発生の同期性
  + 2. 世界経済の長期サイクルと戦争発生の同期性
* 長期サイクルの一般的な局面パターン
* 国家の勃興（覇権国へと成長）
* 影響力の相対的低下
* 国力低下と他国の興隆（覇権をめぐる争い）
* トインビー
  + 50年ごとに一般戦争（勢力バランスの調整）
  + 50年かんの平和期間
* ギルピン　覇権安定論
  + 原動力：拡張主義（覇権主義）
  + 派遣国によるシステム秩序（公共財）と安定性の提供
  + 世界統治の高コスト性、but　そこから最も利益を得る。→コストにより疲弊していき、覇権が交代する
* ウォーラステイン　世界システム論
  + 100年サイクル
  + 中央coreと周辺periphery
  + 覇権お興亡はコンドラチェフの波（イノベーション、景気変動）に連動
  + 資本主義経済の拡張と縮小に連動した戦争
  + 原動力：資本主義、世界経済
* モデルスキー　指導国変遷の100年サイクル
  + 50年ごとにグローバル戦争
  + 50年の平和
  + コンドラチェフの波に連動、Global War は景気回復期に発生、新しい世界指導国を決定
  + 指導国vsチャレンジャー
    - 問題提起・課題設定
      * 指導国の正統性に陰り、地球規模のアジェンダ
      * 例：global warming, corona virus
    - 連合形成
      * 解決策・発明
    - マクロ決定
      * グローバル戦争：武力により時期の指導国を選択
      * 政治的決定が次のサイクルの戦略環境を規定
    - 実行
      * 次期サイクルの国際秩序を策定・提供、そして疲弊。
  + グローバル・リーダーの条件
    - 島嶼国家or半島国家：安全保障のモートがある
    - 強大な海軍力
    - 経済超大国
    - 安定し、開かれた
  + A screenshot of a cell phone

    Description automatically generated敗退国

歴史の語り方はモデルフリーではない

山川教科書も、歴史循環論もモデルの一つである

「歴史の終わり」　アウグストゥス、アリストテレス以降の弁証法、ヘーゲル、フランシスフクヤマ、唯物史観など

世界システム＋派遣循環論からわかるもの

戦略的環境における課題の発見、創出

国際政治は、戦争の影にある。

Escape from Intellectual Paradigms

分析レベル

* 個人レベル：第一イメージ
* 国内（政治）レベル：第二イメージ
* 国際（システム）レベル：第3イメージ
* どれを採用するかは不毛な議論

Kenneth Waltz (1959) Man, the State, and War

* 第3イメージ：単一行為者の国家がシステム行動　これが分析に重要と結論
  + 戦略的相互作用
    - 国家を単一行為体としてみる。それぞれの国家は同質性の高い治権国家。それが戦略的に交わるため、国内や個人に注目する必要はない。
  + 戦略的環境における制約条件：力の分布・比較優位・軍事技術
    - 力の分布があり、それに行動が制約される。比較優位がある。
  + アナーキー
    - 中央政府が存在しない。国内政治との類推には限界。

Ken Waltz (1979) Theory of International Politics

* 第3イメージに基づく
  + 新現実主義Neorealism の起源
  + Parsimonious (dispensing with all that is unnecessary) な理論を要請すると言う一定の役割
  + Became a new paradigm – neorealism, structural realism.
  + Demands that analysts pick one of the three analytical methods. States that they are mutually exclusive.

Realism – Hans Morgenthau, Kenneth Waltz

* 2 important assumptions
  + Anarchy
  + States are the only single actor
* Fear under anarchy
  + Incomplete information, lack of forceful imposition → mutual distrust
  + Lack of authority that dictates violence → the shadow of war
  + Survival -> fundamental principle of action
* Political landscape: competition for power and security dilemma
* The rudiments of politics is “comparative profit”  
  cannot rule out military action   
  one country’s security is another country’s insecurity   
  one country’s profit is another country’s loss  
  collaboration becomes difficult, conflict and clashes become the default of international politics
* The role of international organizations are limited

Liberalism

* States are not the only actors -> domestic actors
* The goal of survival does not have precedence over all else
  + State goals are dependent on domestic actors
  + Maximization of state wealth -> pursuit of absolute and not comparative profit
* Optimistic about the achievement of cooperation
  + State’s pursuit of absolute merit is grounds for joint cooperation
  + Military conflict is costly and best avoided
  + Comparative advantage -> free trade is mutually profitable
  + Environmental conservation is also mutually profitable
* Neoliberalism
  + Emphasizes employment of systems to engineer cooperation
    - Democracy – people want peace
    - Economic interdependence – opportunity cost of conflict
    - International organizations – elimination of barriers to peace

Constructivism

* Peter Katzenstein, John Ruggie, and Alexander Wendt
* Multiple actors (systems)
  + Activists, ngos
* Actors’ preferences change
* Immaterial factors
  + Identity, culture, norms, actors’ preference patterns and actions
* Legitimacy as a principle of action, rights and obligations in relations
  + Casts doubt on comparative and absolute profit as state goals.
  + Legitimacy based on norms and identity plays huge role   
    => Adaption to intersubjective norms and sources of legitimacy
* Optimistic towards international cooperation
  + Cooperation does not require mutually profitable relations or sanctions against noncooperation.
  + Sense of identity encourages actors to adopt legitimate actions and norms.
* Structure of International politics changes
  + Norms, identity, legitimacy changes
  + New agendas built on new values engineer structural changes

Fuck isms -> Robert Reich experiment, Would you rather….

Absolute profit: Your country’s real economic growth rate: 5%; country X’s growth rate: 10%

Or Comparative profit: Your country’s real economic growth rate: 3%; X’s: 3%

Depends on which country X is, whether that country poses a threat to your own country.

The Strategic environment.

Robert Powell

ネオリベラリズム、ネオリアリズム両学派の主張は一般的な説明モデルの特殊型  
協調の可能性は利得の形ではなく国家行動に対する制約条件（戦略的環境）に依存する。

Absolute and Relative Gains in International Relations Theory

As simple as possible model

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated

Expanded prisoners dilemma, F= free trade, T = tariff, C = closed borders

Implications:

Assumptions on preferences are an empirical matter and should not be predetermined in theory.

Need for adjustments based on subject of research

Must not argue on what the best, all encompassing “assumption” is and presume that that is true throughout.

Treat different problems and topics as puzzles.

What are puzzles?

* Phenomena that require explanation
* Observed phenomena (shouldn’t happen but did), unobserved (should happen but didn’t) phenomena
* パズル
  + 理論予想と観察の乖離
  + 不正義の横行
  + 政策の失敗
* 理論＝パズルの提示とその解

パズルとは、説明を要する現象である。戦争が他の異なる手段を用いた政治過程の延長であるとするならば、なぜ戦争でなくてはいけないのか。なぜ相手に要求を飲ませるために、交渉できないのか。特に戦争はコストが甚大、少なくとも一方は損をする→両国損をする。なぜ戦争へと陥ってしまうかは説明を要する現象である。

戦争は外交とは異なり、当事国が双方ともに甚大なコストを払わねばならない非効率な紛争解決手段である。よって合理的に意思決定できる国家であれば、戦争よりも外交で紛争を解決していくはずである。しかし、それでもなお戦争が起きてしまうのはなぜか、合理選択理論に基づく戦争原因研究は考証理論に依拠しつつこの問いに次のような解答を与えている。[多胡] found in quantitative analysis (politics) folder

戦争が他の政治手段と変わりなく、その行為に何ら特異性がないと想定すると、なぜ他の政治手段ではなくあえて戦争を選択するのだろうか。

クラウゼヴィッツの定義を受け入れることは、第一に戦争は外交などの平時における政治過程によって合意に到達できなかった際の、オルタナティブな合意形成の手段であることと、第二に平時の外交は交渉による紛争解決を基調としており、係争当事国双方の合意に基づくが、平時の外交から戦争へと移行することはその合意が達成できなかった帰結として、少なくとも一方の国が自らの掲げる政治的な目的を断念できないときに起こると考えるのが自然である。

戦争が通常の政治過程の延長であると、他の手段を用いた外交過程の一部であると考えるとオプション1とオプション2の2段かいに外交プロセスを分けることができると話した。ここで、第一段階では係争当時国は交渉により妥結案を探るが、交渉決裂がすなわち戦争への移行を意味することから、交渉の段階に戦争の結果を想定（シミュレート）しながら交渉を行う。これが、交渉理論である。

x>p-c1, x>1-p-c2が交渉範囲（交渉範囲の説明）。しかし、この時c1+c2=0 でない限り平和な解は存在し、なおc1+c2が0となることはない（少なくとも一方は正）よってクラウゼヴィッツの定義から出発して戦争を考えると、紛争解決としての戦争は、必ず平和的な解決案があるはずであるという帰結に至る。ではなぜ、わざわざコストが高く、事後的に非効率な戦争が選択されるのか、一見して合理的な主体である国家は戦争を選ばないはずであるため、この現象は説明を要する＝パズルである。  
戦争を通して決着した時にはS1 は p-c1, しかし、外交の中で戦争のシミュレーションを行いながら妥結したら利得はp である

S2 は戦争を通した決着は1-p-c2 外交を通した決着は1-p

戦争をクラウゼヴィッツの定義に従って他の異なる手段として行うと非常にコストのかかるものである。

戦争は非常に非効率的、必ず社会的な損失がある c1 + c2 > 0

朝鮮戦争ー＞政治過程で得たものと戦争の結果得たもの（三十八度戦）がほぼ等しかった。

A screenshot of a social media post

Description automatically generated

What is war?

クラウゼヴィッツの定義

1. 戦争とは他のことなる手段を用いた、政治過程の延長
2. 戦争は、相手国に当事者の意思を受入させるための、暴力行為である

* 戦争は政治目的のための手段
* 戦争は武力を用いた政治行為
* 戦争の合理性の根拠を付与（戦争に合理性があるかもしれない（必ずしもあるとは限らない）

クラウゼヴィッツ定義の含意

* 戦争は、通常の政治過程（外交）による合意形成が失敗したときの、他の手段による合意形成
* 係争当事者の少なくとも一方が当該の政治目的を断念しないとき→相手に合意を迫る手段（政治行為）
* 戦争が通常の外交と同様の政治行為であると考えるならば
  + 外交は交渉テーブルにおける紛争の政治解決。
  + 戦争は戦争という交渉の場における紛争の政治解決
* 戦争の原因を考えるにはまず
  + オプション1からオプション2への移行の原因を考える
  + ただし、外交決着1の実現には双方の合意を必要とするが、2への移行は一方的に決定できる。

A close up of text on a white background

Description automatically generatedA screenshot of a cell phone

Description automatically generated国際紛争のバーゲニングモデル

* A screenshot of a cell phone

  Description automatically generatedpはS1が戦争に勝つ確率（絶対戦争）とも、戦争が集結し、相互の条約交渉の結果S1が得る期待領土とも考えられる。
* 外交交渉時点で戦争の結果をシミュレートし、交渉範囲を設定する。
* A close up of text on a white background

  Description automatically generated　戦争が通常の政治過程の延長であると、他の手段を用いた外交過程の一部であると考えるとオプション1とオプション2の2段かいに外交プロセスを分けることができると話した。戦争を通して決着した時にはS1 は p-c1, しかし、外交の中で戦争のシミュレーションを行いながら妥結したら利得はp である
* S2 は戦争を通した決着は1-p-c2 外交を通した決着は1-p
* 戦争をクラウゼヴィッツの定義に従って他の異なる手段として行うと非常にコストのかかるものである。
* 戦争は非常に非効率的、必ず社会的な損失がある c1 + c2 > 0
* 朝鮮戦争ー＞政治過程で得たものと戦争の結果得たもの（三十八度戦）がほぼ等しかった。

戦争コストから派生する平和解決の条件

A screenshot of a cell phone

Description automatically generatedA close up of text on a white background

Description automatically generated

* A close up of a map

  Description automatically generated戦争回避のための平和解決解が存在する条件は？
  1. 戦争の定義より、平和解は「常に存在する」
     + 戦争は事後的にパレート非最適（c1＋c2＞0）
  2. 戦争コストは、国際紛争の平和解決のための必要条件
     + C1 + c2 → 0 だと平和解決は存在しない
     + つまり、c1→0あるいはc2→0だと平和解決は不可能
  3. よって、社会が戦争コスト（戦争の悲惨さ）を認識している限り、平和解は存在する！必要な戦争などない！？
  4. 正戦論（正しい戦争、必要な戦争）はあり得ないのである。

戦争のパズル

戦争には事後的にコストがかかる限りにおいて、双方ともに合意可能な平和解は必ず存在。

戦争は事後的に非効率

だからこそ平和的解決は常に可能

では、なぜ効率的な平和解決ではなく、非効率な戦争をわざわざ選択するのか？

戦争原因の説明：

なぜ原則的に可能な平和解決の選択に失敗したのか

なぜ、どのような間違いを犯して、戦争を起こしたのか

戦争パズルへの解としての戦争原因モデル

* 原則的に常に存在する平和解決の実現を阻害する機構
* 「政治の失敗」としての戦争
  1. 不確実性
  2. コミットメント問題
  3. 争点分割（不）可能性

平和解決達成のための条件（存在ではなく達成）

* 平和解決の原則的存在は、それが常に達成可能であることを意味しない
* 国際紛争においては、S1 あるいはS2の双方の政府が、平和解決が存在する位置を理解
* バーゲニングモデルにおいて、平和解決が可能な範囲の「大きさ」と「位置」は、S1の戦争利得p-c1とS2の戦争利得1-p-c2 の値を理解する必要がある。
* 紛争解決に必要な情報は「私的情報」である
  + 戦勝確率p
    - S1 が勝つ確率
    - 戦争の結果、決定される新しい領土配分
    - 国力や軍事力、軍備状況、兵力運用、軍事技術、戦闘能力
  + 戦争コストci
    - Siの戦争コスト
    - 戦争コストに耐える政治意思や政治的覚悟
    - イデオロギー、世論、政治体制、係争事案の重要性
  + 国際紛争は不完備情報ゲーム

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated戦争原因としての不確実性

* ジレンマ
* リスクリターントレードオフ
* 戦争リスクを高めるほど、戦争ではなく妥結で終結した際のリターンが大きい。
* 情報の失敗
* 「国益最大化」という制約の下で「戦争の危険性を最小化」する最適化問題
* 不確実性の払拭が必要条件
* 不確実性が残っていれば戦争のリスクは常に存在。

情報の失敗

* 情報の不確実性によるリスク・リターンのトレードオフが戦争の原因を生む。
* ならば、情報交換による不確実性克服により戦争は回避できる？
* 国際紛争における情報交換・コミュニケーションの過程＝国際危機
  + 国際危機によるコミュニケーションがもう一つの戦争原因を生み出してしまう（paradoxical）。戦争回避のための情報が戦争を起こす。

国際危機とは

* 国際紛争において、係争国が武力行使を示唆・威嚇することで、戦争の危険が高まっている局面
* 外交交渉・軍事的威嚇・軍事力の動員・部隊の展開・限定的武力行使・海上封鎖など
  + 来るべき武力衝突に向けての準備
  + バーゲニングにおける戦略的環境のパラメータである、軍事能力（p）や政治意思（ci ）についてコミュニケートするための言語。イラク戦争、湾岸戦争の前に太平洋艦隊をわざわざペルシャ湾へ連行（ブッシュ）シグナル。オバマ、シリア介入時に地中海の東にイージス艦を持っていく。
  + Nations must render their signals effective by accompanying them with actual actions towards war in order to avoid mere cheap talk, since everyone possesses the incentive to misrepresent.

国際危機の目的

1. 戦争の回避：私的情報開示による不確実性の払拭
2. 国益の追求：不利な情報の隠匿や偽り（＝危機外交の有利な展開）

* 二つの相反する目的  
  → S1やS2によるメッセージの信憑性の問題を創出
* 国際危機における信憑性：
  + 武力行使の威嚇を伝達する時、相手国がそれを信じてのみ、その伝達は信憑性をもち、意味を持つ。
  + 相手が信じなければ軍事力や政治意思は伝わらない
    - サダムフセイン、アメリカの政治意思を信じなかった。
  + 軍事力や政治意思は直接観察できない私的情報
  + 武力行使への能力も覚悟もない「こけ脅しBluff」であっても相手国が信じてしまう可能性
    - 軍事力や政治意思を偽り、交渉を有利に進めようとするインセンティブ incentive to misrepresent private information.
    - 国際危機におけるコミュニケーションが一層困難である。
* 偽りのインセンティブがある中で、どのように信憑性を確保し、不確実性を克服できるのか？
  + 1) 瀬戸際外交
  + 2) 政治的操作：観衆費用の喚起
  + 3) 軍事力の操作：軍備増強・武力展開・兵力動員

瀬戸際外交Brinkmanship politics

* 国際危機において、軍事的ちょうはつを通して両国を戦争の「瀬戸際」に連れ出すことによって、武力行使への覚悟を示す
* 瀬戸際はデリケートなバランスの上に成り立つ
* 偶発的に、不注意から、「瀬戸際」から戦争という「奈落」に落ちる可能性がある。

　瀬戸際外交の過程

* 徐々に戦争リスクを高める
* 最終的には「一方の降参」か「戦争の勃発」のいずれかに至る。
* 戦争リスクを受け入れる「我慢比べ」となる
  + A close up of a map

    Description automatically generated心理的にもプレッシャー、戦争リスクの受容が信憑性のある威嚇とBluffを峻別
* P- c1 が高いよと威嚇によってシグナルする。

Eg)

* 北朝鮮の核実験・ミサイル（衛星）の発射
* キューバ危機におけるアメリカのデフコン2（戦争準備体制）への引き上げ
* ベトナム戦争末期におけるニクソン大統領によるソ連に対する核攻撃臨戦態

核兵器・核戦争によく見られる。

もう一つの情報の失敗：Slippery slope、どんどん加速するチキンゲーム

観衆費用

* 国際的なコミットメント（武力行使の威嚇）を撤回した時に被る政治的コスト
  + 撤回を封じ込める、政治的に困難にする。
  + 自らが譲歩する能力を封じる
  + Bluffと峻別
* 上記の式の-a1 と-a2にあたる
* それがとる形態
  + 武力行使の威嚇を政治・外交声明として公然に伝達
    - 国際的なコスト
      * 国家や政府の威信を傷つける
      * 政治家個人の信憑性を傷つける
      * 次回の外交声明や武力の威嚇の信憑性を損なう
        + アメリカがシリア介入から撤退する時、日本や韓国外務省が介入しろ（コミットメントの強固さを維持しろ）
    - 国内的なコスト
      * 野党の政府批判を招く
      * 支持率が下がる
      * 選挙に負ける
      * 軍部の信任を失う
* Eg
  + キューバ危機におけるケネディ大統領のテレビ演説
    - テレビに流すということは国民を巻き込む、撤回を不可能にする。本気度を示している＝観衆費用。
  + 湾岸戦争におけるブッシュ大統領のThis will not stand
  + シリアへの介入を巡るオバマ大統領のコミットメント撤回への批判
  + 不使用例
    - 朝鮮戦争への中国による介入の威嚇の失敗
    - ベトナム戦争末期におけるニクソン大統領によるソ連に対しての核攻撃臨戦態勢
    - いずれも大々的に公表していない。

通常の国際危機でよく見られる

Hands tying Signal (退路を経つ/背水の陣)

もう一つの情報の失敗：開戦への「ロックイン」

軍事動員

* 国際危機における軍備増強・軍事動員・武力の展開
* 武力衝突が相手国にとって非常に高コスト・高リスクであることをデモンストレートする目的
* 軍事動員によるコミュニケーションのメカニズム
  + 軍備増強により軍事能力pを向上
    - 相手国の戦争期待利得を低減
    - Pが高いことを示す！
  + 軍事動員に伴う政治的・財政的なコストc1を支払う
    - 強い政治意思（c）を顕示
  + 武力の展開により、戦争コストc1を事前支払い
    - 実際の武力行使のコストを相対的に低減
    - 上の式ではcが低くなる
* Eg
  + イラン海軍によるホルムズ海峡での演習
  + シリア内戦：地中海への巡航ミサイル駆逐艦の増派
  + 湾岸戦争：第七艦隊のペルシャ湾への派遣
  + 台湾海峡危機：アメリカが空母打撃群（第七艦隊）二個の派遣
  + キューバ危機：デフコン2（戦争準備態勢）への引き上げ

通常の国際ききやグランドストラテジー（ミサイルを開発する、同盟を作る）でよく見られる

Sunk cost signal （埋没コスト）

もう一つの情報の失敗：開戦への誘引（開戦回避の困難さ）

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated

Why is it a puzzle? コストが大きい。日本の最たる目標は朝鮮半島の内政改革による独立維持。朝鮮はa dagger to the heart of japan. 中国もアヘン戦争とその後の混乱により内政不安定、加えて清仏戦争などを戦っており、戦争という財政拠出は避けたい。

なぜ？　情報の非対称性。清が日本の戦意を過小評価していた。日本は外交により共同で韓国の改革を行い、日本に対する脅威を解消しようとしていた（山縣有朋、伊藤博文）しかし、清にとって韓国は冊封体制の中で長らく属国という性格が強い、自分の影響力を強めたい。天津条約、清が優位な状況の持続となる。日本は甲午農民戦争において出兵、撤兵を拒否して清に最後に迫った（瀬戸際外交）戦争をする意志を伝達、信憑性を持たせる。清はなお真剣に取り合わず、日本の提言を拒否したため、戦争へ。

不確実性による戦争が起こるメカニズムはわかった

→情報完備性が満たされていれば、平和は保たれる？

分割可能性モデルでは争点の不分割が戦争原因

不確実性では情報問題

では、分割性・完備情報は戦争回避・平和解決の十分条件となり得るか？

A close up of a piece of paper

Description automatically generatedA screenshot of a cell phone

Description automatically generated→ なり得ない。　平和的解決の範囲、大きさ、位置に関する情報が完備していても戦争は起こりうる。コミットメント問題

1. 力を巡る紛争（領土紛争、核開発）
2. 先制攻撃（ブッシュドクトリン、敵基地攻撃）
3. 予防戦争（努力変遷）

力を巡る紛争の戦略状況

* 国際紛争の係争事案がS1とS2の軍事能力に直接関わるとき、今日の合意は、将来の国力（p）を変化させる
* 領土紛争。領土割譲＝相手国の軍事力増強
  + 領土が戦術的重要性を持つ場合。
    - ゴラン高原
      * イスラエル北部のシリア国境
      * 戦術的要衝
      * 領土割譲は、シリアに戦術的優位を与える
  + 領土が莫大な経済力を生む
    - ラインラント
      * ドイツ西部のフランス国境
      * 地下資源＋ライン川物流＝工業地帯・経済発展。
      * 軍事力増強につながる。
  + 今日の交渉妥結による戦争回避は明日の再交渉・武力行使へのインセンティブをS1に付与するA close up of a map

    Description automatically generated

戦争回避のためには→S1がxを維持して再交渉・武力行使を求めないというコミットメントの信憑性を確立する必要

コミットメント信憑性の欠如は、平和解決が可能であるにもかかわらず、交渉失敗を招く。

軍事力を巡る紛争

* 2003年に至るイラクの大量破壊兵器疑惑
* リビアの核兵器開発＋化学兵器保有
* 北朝鮮の核兵器保有
* イランの核兵器開発問題
* 今日の合意（武装解除）は自国を弱体化して相手国にコミットメントを破るインセンティブを与える。

力を巡る紛争―回避の仕方。

* ゴラン高原―第三者P K Oによる停戦合意の遵守
* ラインラント
  + ロカルノ条約（非武装地帯化）〜ナチスによる進駐
  + E Uでようやく成功
* イラク　失敗　2003年イラク戦争
* 北朝鮮：核開発成功
  + 武装解除が行われなかったが戦争は回避された。
* リビア：武装解除（強制外交による）
  + サダムフセインの逮捕を受けて自主的に武装解除した
* イラン：穏健派ロウハニ大統領への政権交代
  + 政権交代による外交姿勢の転換もコミットメントに信憑性を持たせる重要な示唆。

先制攻撃

* A screenshot of a cell phone

  Description automatically generatedテロリズム、核兵器。

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated

* 例えS1だけが先制攻撃を想定した軍事力を計算していても、両方がそうしていても、先制攻撃による軍事力pを想定することでそれぞれの平和解決の可能範囲が乖離し、交渉可能範囲が小さくなるか消失する。
* 2つの平和解決範囲が乖離した場合の平和の条件
  + A screenshot of a cell phone

    Description automatically generatedどの国が先制攻撃をするかについて合意が必要。
* 例
  + 歴史的には稀
  + ブッシュ・ドクトリン
    - テロリストを庇護する国に対する先制攻撃
  + 日本の敵基地攻撃
    - 核兵器発射前に運搬能力
  + イスラエルの先生
    - イラク原子炉爆撃事件
  + 先制攻撃能力　→ 双方に先制攻撃を仕掛ける動機を与える（＝戦略的安定性を損ねる）

予防戦争

* 19C欧州協調の時代の列強間の戦争は全て現状維持国によって開始された
  + 普墺戦争
  + 普仏戦争
  + 第一次世界大戦
* これら戦争は侵略戦争ではなく予防戦争

予防戦争の戦略状況

* 軍事バランスが外部要因により大きく変化することが予想される状況
* Eg
  + 新興国S1の国力軍事力は、経済成長以前では、S2に劣るが、経済成長以後では、S2を凌駕する
  + 第一次世界大戦前のドイツS1と欧州列強S2
  + 現在の中国S1と米国S2
* A screenshot of a cell phone

  Description automatically generated軍事技術・兵器開発によるパワー・シフトでもロジックは同じ。
* パワーシフトが予防戦争を招く条件
  + 予防戦争がパワーシフトを防ぐ必要。
    - 大規模
    - 覇権の交代機に頻繁
    - A J Pテイラーの観察に通じる
* 予防戦争を回避する条件
  + S1によるS2に対する将来に跨ってxを反故にしない、武力行使をしないというコミットメントが必要。  
    アナーキーかでは信憑性がない、。

分割（不）可能性

* 完備情報であっても戦争が起こるもう一つの要因。
* 争点が分割可能：
  + 戦争原因に関するパズルの設定における隠れた仮定
    - バーゲニング(財の再分配)が可能
* 争点が分割不可能
  + バーゲンニングは不可能
  + 交渉の有効解はAll or Nothing
  + こんな時のバーゲニングの知恵
    - 争点リンケージ
      * 複数争点間での譲歩の交換
    - サイド・ペイメント
      * 代替の交換（金銭・謝罪などのシンボル行為）
* 国際政治における多くの争点は物理的に分割可能
  + 領土、政策、政治体制、民族・宗教の線引き
  + 物理的な観点ではなく、争点の政治的な評価の問題
  + 分割可能かどうかは、政治的に規定される。
    - 領土や政策の分割は本質的な価値を奪う
      * 非政治問題でも同じ（離婚裁判での親権・監督権など）
    - 政治的に分割不可能だとする主張
      * 国内政治での支持取り付けのためのレトリック
        + 高圧的政策ポジションは支持集めに効果的。支持を集めるために分割不可能であると主張する。
      * 対外的な交渉力を上げるため
        + 分割不可能＝分割しないと対内的にアピール、観衆費用を喚起して譲歩を迫る。
      * 歴史的、文化的、宗教的に分割不可能だというレトリック
        + 政治過程と内生的
* エルサレム問題
  + 分割可能だった争点が分割不可能になった例。
  + 支持を集めるために高圧的政策転換。
  + エルサレム支配の歴史的根拠 そもそも歴史経緯は政治行為の帰結
  + エルサレム支配の国際法的根拠 条約は、そもそも国際交渉の帰結を明文化 既存の国家行動のパターンを制度化したもの
  + 領土問題における、歴史・宗教・国際法䛾根拠䛿、先 行する政治過程䛾帰結であり、交渉材料として䛾政治 レトリックとして理由されていること理解する必要

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated

コミットメント問題応用，米中関係とトゥキディデスの罠

トゥキディデスの罠

* 力の移行期の大戦争

パワートランジション

* 仮定
  + 無政府かつ階層的（hierarchical）
    - 覇権国が階層において国際政治の”rules of the game” を設定
    - 覇権国と他の現状維持国satisfied powers
    - 現状不満国dissatisfied states　も存在
  + 国家の2つの政策目標
    - 安全の最大化（他の現実主義と共通）
    - 国際政治のルールや規範・秩序への影響力の最大化
* 力の移行・勢力変遷　＝　大国が覇権国の国力を超えること
  + 経済発展・政治発展→国力のバランスは常に変化
  + 大国が，覇権国に対する挑戦国として浮上
  + 成長率の違いにより国力が交差する．交差時期を移行期と呼ぶ
* 力の移行をめぐる動機
  + 覇権国は現状維持
  + 挑戦こくは新たな体制の策定
    - 急速な成長は，不満を増大
    - 台頭国は力に見合った地位とrespectを求める
* 力の移行をめぐる紛争
  + Rules of the game国際秩序をめぐる争いはシステム変更が争点となる．
  + 階層の変更と新しいルールの策定を伴いうる．
* 戦争原因
  + 条件：覇権国と挑戦国の力が拮抗する時
  + なぜ？
    - 予防戦争におけるコミットメント問題と類似
    - 力の移行期に戦略的予測が最も不確実
    - 覇権国・挑戦国のいずれも戦争のインセンティブを持つ．
    - 挑戦国は，ようやく，初めて覇権国に対して勝機を見出す
    - 覇権国は，挑戦国を打破する最後の機会
* パワートランジッションとしての戦争
  + 大国としてのテストは大国間戦争の能力，力のテスト
  + 大国間戦争は常に現状維持国が始める（A JP Taylor）
  + 全ての大国間戦争は予防戦争（侵略戦争にあらず）
  + 挑戦国による将来の力の行使を未然に防ぐ．
* 歴史の皮肉
  + 大国としてのテスト
    - 大国として認知＝他の大国に対して単独で大戦争を行う
      * 日露戦争
  + 大戦争の遂行能力：大国としての証明
    - 大戦争は被害甚大，国力疲弊
    - 大戦争後に交流した唯一の国家は，米国
* 大戦争はこのパターンに当てはまるように見える
  + 覇権と戦争のサイクル
  + 第一次・第二次世界大戦：ドイツが英国を猛追
  + W W1はドイツ対英国の戦いではない
  + A screenshot of a cell phone

    Description automatically generatedしかし，例外もある：U S―U K
  + A screenshot of a cell phone

    Description automatically generated10この力の変遷，パワートランジションが起きる時に必ずしも戦争が起きるわけではない．
* 権力を濫用しないか？のコミットメント問題．米国による搾取はないよっていう信憑性を確立することによって平和的な均衡の移行が可能となった．自らの手を縛った．

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated米中対立とトゥキディデスの罠

* Real GDP of US given at 100% line
* A screenshot of a cell phone

  Description automatically generatedTwo predictions of Chinese power, one says china surpassed US in 2017, other says they will surpass in 2021.

2 　信憑性確立による覇権の奪取．Strategic restraint でなくとも binding, security alliances. ? Are these a part of 自己制約 ? 権力の移譲のケースも見受けられる， but that’s not 覇権移行．ゼロサムではないと解釈？新たなバーゲンが双方に利益．制度による監視，voice opportunities などの必要．．．

現在の国際秩序は国連などの機関を通して多くの国に影響力を持つ機会を与え，また多くの国際機関，条約や協力関係の中から選択の自由を与えている．米国による一元支配というより，米国自身もそれに従う多角的な構図をとっている．その為，中国のような台頭国が国力に見合った地位と尊厳を得るのに，戦争を介する必要がなく，中国が現在欧州やアフリカでやっているようにリーダーシップを発揮できる．

覇権国は現状不満国の台頭を恐れ予防戦争を行う事が知られている．しかし，現行の国際システムでは，多角的な制度と民主的な意思決定プロセスにより，

米国が中国に予防戦争を仕掛けるには，中国が国力で米国を超過し，将来米国の利益を損なう新たな国際体制を武力を盾に策定すると米国が信じる必要がある．しかし，

現在の国際体制は多様な国際機構と条約関係を通して中国に戦争を介さずに影響力をつけ，地位を高める経路を与えている(Ikenberry, 2018)．また，この制度はその成員に共有の利益を与えるので，中国も米国同様利益を被り，逸脱はコストの高いものとなる．さらに，現体制は専制ではなく，米国も体制に従う構造をとっているので，改変を試みる場合，体制とその支持者全てを敵に回す．格差はあるものの民主的な組成の体制を維持したい国は多いと想定できる．以上を勘案すると，中国は現体制を改変する為のインセンティブは低い(Chan, 2004)．米国もそれを考慮すると，中国が国力をつけても武力に訴え制度を改変することはしないと考え，両者の間のコミットメント問題が解消され，予防戦争は起きないと考えられる．よって，米中は戦争前夜ではない．

現行の国際システムは民主的な国際機構と多角的な条約等を通し、台頭している中国に戦争を介さずに地位を高める経路と、経済的利益を与えている(Ikenberry, 2018)。その為、中国の現状への不満が戦争のコストを背負うほど高いとは考えにくく、米国とも概ね協力して国際秩序を維持してきた(Chan, 2004)。よって、中国が現体制を反故にしない、武力行使をしないという主張は信憑性を持ち、米国は予防戦争を好まないと考えられ、米中は戦争前夜ではない。

Chan, S. (2004). Exploring puzzles in power-transition theory: Implications for Sino-American Relations. *Security Studies*, *13*(3), 103-141. DOI: 10.1080/09636410490914077

Ikenberry, J. G. (2018). Reflections on *After Victory*. *The British Journal of Politics and International Relations, 21*(1), 5-19. DOI: 10.1177/1369148118791402

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated

Abc は講義の中で言っている．

Dは自分で考える．模範解答なし．全体で2000字 max．簡素に書く．

他の学生にもわかるように．

安全保障

* 競争的安全保障　＜リアリズム＞
  + 外的脅威に対するバランス・オブ・パワー
    - 軍事力
  + 抑止政策とはバランスオブパワーを軍事力を用いて達成していこうという政策．
* 協調的安全保障　＜リベラルリズム＞
  + 戦争のない環境を創出
    - 信頼醸成

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated

A close up of text on a white background

Description automatically generated抑止―定義

* 抑止コミットメント＝挑戦国が現状変更・挑戦を行ったら懲罰をするという意思表明
* コミットメント履行＝懲罰実施
* 抑止＝相手国が望ましくない行動を取らないように予防するための軍事力の運用．
  + 現状を維持するための軍事力運用．
  + 相手国を懲罰するための軍事力行使の威嚇．

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated抑止の類型

* 一般抑止
  + 武力行使・武力による威嚇が明確でも差し迫ってもない
  + 潜在的敵対関係は継続
    - 成功＝潜在的挑戦国による現状変更を求める軍事的威嚇や事態のエスカレーションを防ぐ．
    - 失敗＝国際危機の発生，軍事的緊張の顕在化
* 緊急抑止
  + 挑戦国による武力行使が差し迫っている
  + 一般抑止が崩れ，軍事的緊張が高まっている
    - 成功＝挑戦国による武力行使を阻止
    - 失敗＝武力衝突

抑止の条件

* 抑止成功の条件
  + 挑戦国が挑発を選択したときの抑止コミットメントを挑戦国が期待するかどうか．
  + コミットメントの信憑性
    - ある＝履行を選択すると信じる
    - ない＝撤回を選択すると信じる
* A close up of a map

  Description automatically generatedコミットメントの信憑性確立
  + 抑止コミットメントの差別化をすれば良い．
  + 抑止コミットメントを履行する能力と意志のある国家のみが取れる行動をとる．（＝信憑性の工学）

コミットメント信憑性の工学

1. 軍備増強による戦争利得の向上
2. 武力行使への政治的意思を顕示（国内政治化→観衆費用，撤回の政治責任）
   1. キューバ危機
3. 利害関係の大きさを顕示（戦争利得を上げる，撤回利得を下げる）
   1. 朝鮮戦争，アメリカが朝鮮半島の政策優先順位を下げた→中国に利害関係の小ささをシグナル，戦争誘発？
4. 将来の信憑性を俎上に載せる（コミットメントは連続性がある，将来の外交問題を創出する可能性が撤回の利得を下げる）
   1. キューバ危機，今日譲れば明日はソ連は西ベルリンに侵攻してくるだろう．

拡大緊急抑止の実証分析

* 拡大抑止に寄与しうる要因
  + 軍事バランス
    - 通常兵力
    - 核兵器
  + 抑止国と第3国の利害関係（日米同盟ではアメリカと日本）
  + 将来の信憑性
* 拡大緊急抑止の作動条件
  + 有事の際，1迅速に，2低コストで，3確実に攻撃目的を達成する見込みが低いと挑戦国が判断
  + 裏返すと，武力衝突は長期に渡る高コストな戦争を招くと挑戦国が判断．
  + 拡大緊急抑止が作動しており，現状変更の挑戦を防止できている．
* 拡大緊急抑止の成功の要件
  + 多様な事態に即応できる，軍事力を抑止国・第3国が保持．
  + 前方展開・緊急展開が可能な兵力を持っていて，それが優位性を持っている．
  + 緊急抑止の目的は軍事作戦の開始時点か初期に挑戦国の軍事目標達成を阻止すること．
* 軍事バランスの3種類
  + 緊急軍事バランス
    - 抑止国の介入以前，第3国単独の緊急展開部隊と挑戦国の軍事能力バランス
  + 短期軍事バランス
    - 抑止国の介入後，抑止国と第3国の共同と挑戦国の軍事力バランす
  + 長期軍事バランス
    - 武力衝突が長期化し，抑止国・第3国vs挑戦国の総力戦における軍事能力のバランス
* 実証分析の詳細はスライド参照．

核革命と核抑止

核抑止と通常抑止の違い

* 通常抑止＝コミットメント履行（＝武力行使）の信憑性が必要条件
* 核抑止＝コミットメント履行（＝核兵器使用）の信憑性が欠如（確立が不可能）

核革命

* 核兵器の登場―＞従来の軍事力の論理を破綻
  + 現代の核兵器：広島原爆の百倍の火力
  + 水素爆弾：W W2全火薬量の二倍
  + 核兵器は国家の消滅が可能
* 核兵器は従来の軍事力＝政治目的（クラウゼヴィッツの定義）を変化させる．
* 軍事力は政治目標を達成する．しかし，核兵器の破壊力は合理的な使用を根本的に不可能にしている．国家・政治主体をも消滅させてしまえば（合理的アクター自体がなくなれば），政治目的は達成できない．
* 以上から，核兵器の使用が現実的でないならば，その威嚇は本質的に信憑性を持たない．
  + 挑戦国が現状変更を志向したときの抑止国の行動は撤回に限定される，なぜなら国家の消滅を招く核戦争による利得は大幅なマイナスである．
* 通常抑止との比較
  + 通常抑止
    - 抑止コミットメントを履行する能力・政治的意思
  + 核抑止
    - 信憑性問題における能力は問題にない（一つでもあれば十分に国家を消滅させることができる）
    - 問題は政治的意思の有無
    - 核抑止のパズル
      * 核使用の非合理性
      * 大きすぎる威嚇をどう飼い慣らす？
      * 本質的に信憑性のない抑止のコミットメントは可能なのか？米ソ間ではなぜ成功していた？

核兵器の運用

* 第一撃（先制使用）
  + 相手国の軍事力，特に核兵器による反撃能力を低減する
  + 軍事能力・反撃能力などを標的
  + I C B M
* 第二撃（報復使用）
  + 第一撃を回避し反撃（懲罰）力を確保する→抑止を発揮
  + 都市や市民などを標的
  + 戦略爆撃機や潜水艦発射弾道ミサイルS L B M

大量報復戦略

* 米国とその権益に対する攻撃・侵害の抑止を目的
* 抑止戦略
  + 小さな限定攻撃であっても，核兵器を用いた全面的な報復攻撃を大量に行う
  + 地域・局地紛争に対して，ソ連や中国に即座に核攻撃を行う
  + 地域対象として民間標的を排除せず
* 有効性が疑問視される
  + 相手に第一撃で軍事目標を先制攻撃する誘引を付与
    - コミットメント問題，先制攻撃による戦争利得が高い．先制攻撃（第一撃）のインセンティブに
  + ソ連の第二撃能力による報復を想定するとアメリカの自殺行為につながる，信憑性に問題．

柔軟反応戦略

* 大量報復戦略の欠陥を克服
  + 信憑性の欠如
  + 相手国の先制攻撃誘引
* 局地紛争から大規模戦争まで各局面に合わせて，柔軟に適切な規模で，適切な標的に対して正確に迅速に反撃を行う事で信憑性を確保する試み．
* 被害を最小に止める取り組み

相互確証破壊戦略

* Mutual Assured Destruction (MAD)
* 柔軟反応戦略を洗練化した．
* 双方の第二撃能力を前提
* 相手国からの核攻撃に対して，迅速に確実に（自動的に）第二撃能力による報復を行い，その結果，双方ともに受け入れがたい甚大な全面的な損害を与える（国家の事実上の消滅）
  + 先制攻撃への誘引を打ち消す（大量報復戦略）
  + 双方の被害の最大化を確保．自分のも最大化．自殺行為を宣言するに等しい．
    - 大量報復戦略 – 相手の被害を最大化．双方ではない
    - 柔軟戦略 – 双方の被害を最小化
  + 攻撃対象として民間標的を排除せず（柔軟戦略）
  + ナッシュ均衡（大量報復・柔軟戦略）
* 修正としてそう際戦略登場，民間標的を排除し，相手国政府中枢の攻撃を最優先，次いで軍事目標を攻撃．

MAD の論理と問題

* Thomas Shelling, An Astonishing Sixty Years: The Legacy of Hiroshima”
* 核抑止における核攻撃というコミットメントは非現実的．
  + 信憑性問題における能力はもはや問題ではなく
  + 政治的意思の有無のみが問題
* 瀬戸際外交としての核抑止
  + 瀬戸際外交＝リスク戦略
    - 争点を限界まで持ち出し，相手に譲歩を迫る
  + 核戦争に対するリスクを共有（相互確証破壊）
    - 最悪の帰結（抑止の失敗と核戦争勃発）は，全当事者にとって，耐えがたい甚大な被害をもたらすべき
    - 故に，全当事者が，核戦争を回避するインセンティブを持つ．
  + 成功条件としての核戦争勃発の確実性
    - 抑止の失敗により，核戦争が確実に起こることが必要
    - しかし，核戦争に訴える威嚇は，本質的に信憑性がない．
      * **戦略的非合理性**
        + 非合理性の戦略的優位性を利用

相手国のコミットメントを理解不能．

核戦争の被害に対する免疫，非合理性

* + - * + ニクソンによる試み（Madman Theory）

核攻撃の威嚇により，ソ連から譲歩を引き出す．

しかし，最終的には合理的であった．その為，DEFCON引き上げず，予備将校召集せず，ソ連に信憑性がないと判断され，核攻撃の威嚇は軽視された．

* + - * + Dr Strangelove

コミュニケーションの遮断

自動化された最終兵器（＝核反撃）．絶対に攻撃を止められない．

* + - * **偶然に委ねる威嚇**
        + 核戦争の確実性を覆す

相互確証破壊を前提とした核攻撃の威嚇は不可能（合理的行為者はコミットしない）

核攻撃コミットメントの信憑性という問題をすり替える．

* + - * + リスクの威嚇

相互確証破壊を確実にするのではなく（核戦争を確実にするのではなく），単なる可能性とする．

核戦争のリスクを高める威嚇を瀬戸際外交で行う．

* + - * + エスカレーション制御を不可能とするような行動を取る

核戦争のリスク向上の威嚇は信憑性がありうる

不確実性は，「核戦争の威嚇」を細分化する作用

* + - * + リスクの操作戦略

核武装・軍事力はリスク戦略の信憑性とは無関係

リスクを高めるのは政治的意思．これが信憑性の源泉．

* + - * + 神経戦

瀬戸際外交：相手国を核戦争の寸前まで誘導し，譲歩を迫る．

リスクを取りにいく競争

相互確証破壊のリスクを取りに行く政治意思を伝達する戦略．

* + - * + **恐怖の均衡**

危険だからこそ核戦略は機能する．

リスクの創出が核兵器・核抑止戦略の本質

核戦略は，自律的・自動的にリスクを創出する機構．

* + - * + 核抑止・核戦略の大前提としての合理性

瀬戸際外交の合理性＝コストに対する敏感性という限定的な意味．

合理的なアクターは，最悪の状態を自発的には選択しない．

しかし，瀬戸際では恐怖・制御不能による偶発の危険がある．

A screenshot of a cell phone

Description automatically generatedミサイル防衛

* 弾道ミサイル迎撃ミサイル（ABM, Anti-Ballistic Missile）
* ICBM　第一げきへの防御
* ABMの配備は，核戦争のリスク共有を瓦解させる
  + 先制攻撃への誘引を生み，戦略的安定性を瓦解．
* ABM制限条約（1972）
  + ABMによる核抑止の不安定化を排除
    - 互いに，第一撃に対する脆弱性を高める
    - 恐怖の均衡を確実なものにする
  + ABM配備の制限（首都・ICBMサイロの二箇所）
  + A screenshot of a cell phone

    Description automatically generated戦略核兵器のバランスを均等にする．

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated

攻撃兵器なので安全保障ジレンマを惹起．

自国は防衛を想定していても，他国は

脅威として認識，安心供与政策が必要．

同盟と安全保障．

沖縄になぜ米軍基地を置く？

抑止としての緊急展開部隊．実証研究の結果，統計的優位，大きい．

抑止政策のところに記述あり．

国家の安全保障を担う政策として国際政治の歴史上最古のものが「防衛同盟」である。これに関して以下４つの問いに日本語で簡潔に答えよ。なお合計で2,000字を最大とします。若干の過不足は許容します。

(a) 「国家は防御同盟を国家間条約として締結する」こと自体がなぜ「パズル」であるのか説明せよ

(b) このパズルに対する解答を提示せよ。つまり、防御同盟を国家間条約として締結する理由（あるいはその合理性）は何であるのか、講義の内容に照らして説明せよ

(c) 上記(b)で答えた同盟の目的（合理性）に基づき、沖縄県民の苦痛・苦悩やそこから生まれる政治問題があるにも拘らず、日本政府・米国政府は、沖縄に多くの米軍基地を維持し続けるのか説明せよ（ヒント：米軍基地に反対するという政治選好の表明や、その働きかけなどの政治行動は日本政府にとっては政治的なコストであると考えることができます）

(d) 講義の中で展開する「情報理論（シグナリング・モデル Costly signaling model）」を使った同盟パズルへの回答の試みは不完全なもので、パズルを解ききっていません。特に軍事同盟（ここでは特に防衛同盟）は一般（拡大）抑止に寄与するというデータが提示されていない一方で、緊急（拡大）抑止には逆効果であるというデータが得られていますが、これらを整合的に説明したものではありません。ここで、同盟はどのような安全保障上の効能を持つのか説明することで当初の同盟パズルを解け。その際、シグナリング理論を拡張し、これらデータと整合的な、解を提示せよ。

同盟の形成，維持は抑止をするというコミットメントを伝達し，そのコミットメントに信憑性を持たせる有効な手段である．

同盟形成・維持は，情報を相手国に伝達する．

情報の非対称性による紛争はこの授業で見てきた通り．多くの国際紛争は情報の非対称性により起因する．

同盟の形成・維持は1同盟国間に共通利益があることを他の国に伝達する．2戦闘能力の向上を伝達する．3潜在敵国の戦争コストが増大することを伝達する．

こう言った情報は潜在敵国の挑戦，攻撃へのインセンティブを低下させる．

ではなぜ同盟を情報伝達手段として選ぶか？

不確実性に満ちた国際政治ではシグナルにより情報共有をして武力衝突を避けたい．

しかし，そのためには拡大抑止における信憑性を確立せねばいけない．同盟による介入コミットメントの意思と能力が不確実である．その不確実性は，信憑性の低さへ繋がる．

介入コミットメントの意思，能力を確実にすることで信憑性を獲得したい→介入を期待できる同盟にしなければ．同盟の形成・維持は，介入の意思・能力を持たない国は取れない不可能な行動＝コスト・リスクが高い．

コスト・リスク：エントラップメントの危険＝他国の戦争に巻き込まれる．また，同盟によって同盟国が同盟に勇気付けられ，冒険的・強硬的な対外政策を追求して戦争を起こし，自国を戦争に巻き込む危険．

平時コスト：財政コスト＝海外駐留，装備標準化，共同軍事演習

政治コスト＝基地問題，国内批判，安全保障のジレンマ

評判コスト：不履行による将来の信憑性の低減のコスト．

このような高コスト・高リスク体制により，同盟は最も強いタイプの抑止シグナルを送る．

同盟パズルの回答：同盟は高コストである一方，その効果が期待できない  
答え：そのコストそのものが解．同盟は高コストであるからこそ，効果に関係なく，介入コミットメントに信憑性を持たせる有効なシグナルとして作用する．

思いやり予算などの財政コストもあるが，  
日本にとっての最も重要なコスト：基地が密集している沖縄の人々の心理的コスト．沖縄の政府，本土住民に対する不信・憤り．

鳩山政権の瓦解という政治コスト．  
これらのコストが高いほど同盟によって得られる抑止コミットメントの信憑性が高まる．

アメリカは政治的・心理的コストは相対的に低い．片務的同盟に対する説明責任．片務性に対する反論＝政治コスト．  
本国を離れた異文化での生活（転勤族＝military brat）

太平洋はグアムなどもあり，現在アメリカのsphere of influence の中．中国が太平洋へ軍事進出をしようものなら，アメリカは沖縄からそれを防衛することができる＝日米同盟は拡大抑止ではなく直接抑止へとなっていく．自国への攻撃なのでコストが高い＝信憑性に寄与．

(d) 講義の中で展開する「情報理論（シグナリング・モデル Costly signaling model）」を使った同盟パズルへの回答の試みは不完全なもので、パズルを解ききっていません。特に軍事同盟（ここでは特に防衛同盟）は一般（拡大）抑止に寄与するというデータが提示されていない一方で、緊急（拡大）抑止には逆効果であるというデータが得られていますが、これらを整合的に説明したものではありません。ここで、同盟はどのような安全保障上の効能を持つのか説明することで当初の同盟パズルを解け。その際、シグナリング理論を拡張し、これらデータと整合的な、解を提示せよ。

A close up of text on a white background

Description automatically generated

防衛同盟は有事の際の同盟国の戦力を上げる→同盟が防衛のためのみであるというコミットメントは信憑性を持たないため，同盟による戦力増強は安全保障のジレンマを引き起こす（アジアにおける日米同盟）．その為，ある国が同盟を結ぶと，他の国もバランスオブパワーを取る為に同盟を結び，同盟による抑止力は弱まる為，一般拡大抑止の効能は広いレベルでは観察されない．（安全保障のジレンマの為，同盟を組まないというのが最悪の選択肢）．差し迫った，緊急の有事においては，同盟締結は現状変更行動への反撃の確率を高めるので，戦争の確率を高める．このゲームの木で分かる通り，同盟を締結しなければS1は抵抗ではなく譲歩を選択する確率が高まるが，同盟を締結している場合sunken costs （普段からの共同軍事演習や軍事支出）と hand tying（同盟を結ぶ事による観衆費用）により抵抗を選択しなくてはいけないので，そもそも緊急抑止の局面へ進展しやすく，結果として武力衝突へ陥りやすい．